石

平山千代子

青空文庫

私の家に門から玄関まで、ずつと石が敷いてある。

私は、始めは土をふんで歩いた。その頃からこの石とはお馴染である。何度この石につまづいて、口惜しい思ひをしただらう。

「こんな邪魔な石！　どけちやえばいゝのに……」と、けとばして見たことも何度かあつた。

この憎まれたり、けとばされたりした、沢山の石の中に、私の好きな石が二つある。一つは玄関近くにあつて、少し青味がかつた……丁度、青磁のやうな色をした、大きい石で、そのきれいな色、なめらかなつやが私の心を牽いた。

もう一つは丁度、門と玄関との中間に位し、割合に四角く、やはり青ツぽい色をしてゐる。

春はつゝじの花びらをうけ、夏は水引草の小さい花の赤さと調和して、尚更、美しく私の心をとらへた。

私にはこれらの石が、とてもきれいに見えたのである。毎朝の往復にもこの石だけは、わざ〳〵よけて通つた。この石の青さを汚すのが惜しい様な気がして、ふむのにしのびなかつたのである。

夏になると、水まきの時などよくたわし、でこの石をみがいて、その青さに一種の驚きに近い喜びをおぼえた。ジヤンケンとびをする時も、この石だけはふむのが惜しくて、内しよでよけたものである。

少し大きくなつてからは、この石をとびこした。が、困る事には、玄関に近い石の隣りがやはり二番目に私の好きな石なのである。どつちもふみたくない。

早く二つとも、跳びこせる様に大きくなりたいと、何度か練習したものだが、今では二つ位はヘイチヤラで、跳ばうと思へば三つでもとべる様になつた。

かうして、かつては私に可愛いがられたこの石も、今ではちつとも他の石と変らなくなつてゐる。

青空文庫情報

底本：「みの　美しいものになら」四季社
1954（昭和29）年3月30日初版発行
1954（昭和29）年4月15日再版発行
入力：鈴木厚司
校正：林 幸雄
2008年2月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

石

平山千代子

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/